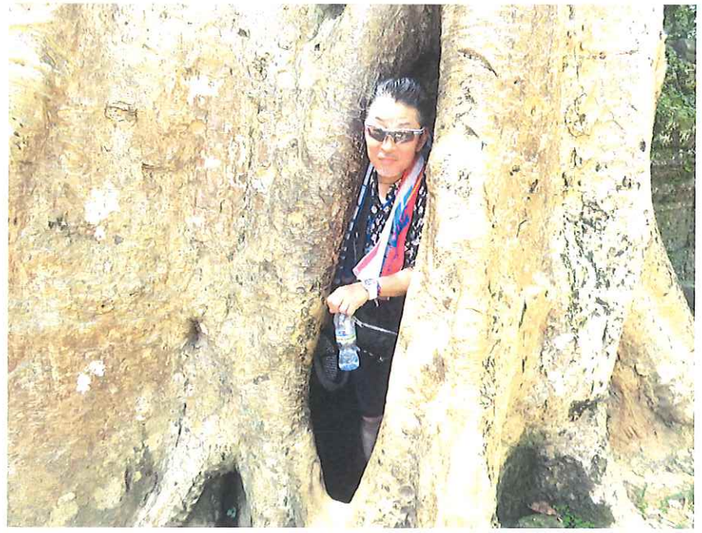
6．視察全体の感想

今回、佐世保地区労福協として参加させていただきました。カンボジアは初めて訪れる地だったことと、長期に休めるのかが自分の中では大きな課題でした。しかし、実際に参加してみて世界はやっぱり大きいなぁと感じさせられましたし、何しろ今まで無知だったことを思い知らされました。それはカンボジアの国そのものの現在の様子、また、歴史においてもそうでした。

また、貧富の差が激しい中で、子ども達はたくましくすくすくと生きていこうとしている姿に感動しました。また、世界の人々のサポートもあり、私達も微力ながらでもその一翼を担える活動をさらに広げて行く必要があると感じました。

また、カンボジアは５日間という期間でしたが、日本の生活のしやすさや、文化をあらためて見直す良い機会にもなりました。やっぱり、日本はいいなぁ～　そう思います。



◎編集後記　Ｈ・Ｋ　今年の労福協の海外視察は、アジア・アフリカ支援米の支援先の視察も含まれていました。実際現地を見て、帰路に着いた参加された皆様の想いは、支援を必要としているところへの支援が重要ということでした。これからも宜しくお願いします。

JTUC
SASEBOCHIKYO

連合長崎 させぼ

NO．２１
連合長崎　佐世保地域協議会
〒857-0851
佐世保市稲荷町２－28
TEL　0956-20-0565
Fax　0956-20-0567
Email:sasebo-rengo@hop.ocn.ne.jp
２０１６年１１月２４日
発行責任者：鴨川博明

県労福協海外視察報告

「　佐世保地協　議長・　佐世保地区労福協　会長・　菊永　昌和　」

１．「くっくま孤児院」（NPO 法人　MAKE THE HEAVEN CAMBODIA PROJECT）視察

「つながっている同じ空の下、いっしょに笑顔の花を咲かせましょう」とのコンセプトで運営されている「くっくま孤児院」。子ども達が施設を出て私たちを出迎えに来てくれました。みんな人なつっこく、すてきな笑顔で出迎えてくれました。

スタッフが日本人ということもあり、子ども達は、日本語がとっても上手です。流ちょうな日本語で歓迎の言葉をいただきました。

また、カンボジアの伝統的な踊りを披露してくれました。息がぴったりあって目を見張るものがありました。日頃の練習では、きつくて涙を流す子もいるという程、本格的な練習をしているそうです。伝統的なダンスは、将来、職業としても成り立つほどのレベルをめざしているそうです。

視察団から、日本の童謡を合唱し交流をはかりました。子ども達からは「ゆず」の「栄光の架け橋」子ども達の間でブームらしく、合唱のプレゼントがありました。「くっくま孤児院」に何らかの支援ができればと思いました。

２．ＰＳＥ「子どもの笑顔のために」（フランスの NGO）視察

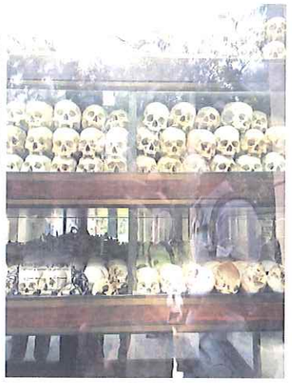
連合の取り組みである「アジア・アフリカ支援米」による支援米はこの施設に送られているとのことでした。この施設はフランス人の夫婦が観光旅行に訪れたときに、子どもたちが「ごみ山」で、ごみの中から金目の物をあさって生活をしている状況を見て、「なんとかしなければ」ということで設立された施設です。

今では、ここで生活している子供たちは3,000人、学校施設もあって通学している子供たちも合わせれば6,000人の子とも達が学んでいるとのことでした。また、施設の規模もかなり大きく、資金面においてもかなり充実しているような感じがしました。この施設では、学校もありますが、職業訓練も盛んにおこなわれており、子どもたちの親の就職あっせんまで行っているとのことでした。視察時は夏休みということもあり、学校は夏休みで、ここで生活している子ども達も一部は親元に帰っているとのことでした。

カンボジアの子ども達に対し、世界各国からの支援が集まってきている現状を目の当たりにし、私たちもより一層できることを考える必要があると思いました。

3．キリングフィールド視察

キリング・フィールドは、ポル・ポト政権下のカンボジアで、大量虐殺が行われた刑場跡の俗称で、クメール・ルージュの秘密警察である「サンテバル」が、知識人・伝統文化継承者・教師・宗教関係者などを反革命的な者と見なして次々と殺害しました。後には、クメール・ルージュの地方機関や事業所の幹部までもが反乱の恐れ有りとして殺害されてしまいました。



内線後のカンボジアの復興が遅れているのはこれら知識人の殺害によるところが大きいと言われています。多数のカンボジア人が殺害された刑場を総称して「キリング・フィールド」と呼ばれています。最も有名な物は、今回、私たちが視察した、首都プノンペンの政治犯収容所 S21（トゥール・スレン）に付属する刑場として造られた、チュンエク（英語版）のキリングフィールド（写真）です。殺害されたのは、知識人とともにその家族も犠牲になりました。小さな子どもは大木に打ち付けられて殺害されたと言います。

また、全ての遺骨が掘り起こされておらず、今なお、多くの遺体が土の中に埋められたままになっており、掘り起こされた遺骨も頭蓋骨以外は、土に埋められたままなので、時折、土の表面から人骨が浮き出してきます。戦争によって人はここまで残忍になれるのか、戦争の恐ろしさを改めて認識しました。

4．トゥールスレン刑務所跡視察

学校を改装して刑務所として使用されていました。左の写真は独房です。右側の写真は、拷問するための瓶です。罪も無い人々を収容し、拷問によりさらに罪も無い人の名前を言わせて、逮捕するという負の連鎖続いたと言います。最終的にはキリングフィールドに連行され殺害されました。

5．アンコール遺跡視察

アンコールワットは、寺院でありながらその広大さや城壁のような造から、王のお城のようなイメージがあります。この場所も内戦時はクメール・ルージュの潜伏場所となったことも頷けます。現在は世界各国の支援を受けて、修復が行われているとのこと。世界遺産にふさわしい壮大な遺跡でした。

アンコールトムは壮大な都市遺跡で一辺が3㎞に及ぶ遺跡です。その壮大さに感動しました。